

寄付金使い道をクローズアップ!

自治体ごとに、ふるさと納税寄付金の使い道は異なるが、複数の使い道掲げる自治体が多いなか、「未来を担う子どもたちのため」にのみ寄付金使用を設定している自治体がある。京都府宇治田原町だ。異才を放つ、その取り組みの数々について聞いてみた。

子どももたちの夢応援に活用しています

寄付金の使い道を子ども育成に一本化

近年、ふるさと納税の使い道に、子どもの教育事業を掲げる自治体が増えているが、宇治田原町では、使い道を子どもの育成に一本化。「未来を担う子どもたちのため」の事業を推進することで、納税額を伸ばしている。子育て世代の寄付者からは、この取り組みに共感し、「応援しています。子どもたちのために活用してください」とのコメントが集まっている。

「宇治田原町には、ふるさと納税で人気の海鮮や肉、フルーツ、お米はありません。ですが、ここにしかないと思える、住民も知らない魅力ある資源を掘り起こして当町の返礼品にして、ま

ちの魅力を見える化しました。そして、この掘り起こしは、大人だけでなく、子どものシビックプライド（まちへの誇りや愛着）を醸成することにつながると考えたのです。以前から、まちの取り組みとして、子どもの育成に力を入れてきた当町は、ふるさと納税の開始当初から、子ども育成に寄付金を使う予定でしたが、寄付者とやりとりを繰り返すうちに、使い道を強く意識す

るようになりました。自信をもって報告できるような子ども育成事業を立案をして、子どもの可能性を広げる事業を拡大してきました」と話す同町企画財政課 勝谷聡一さん。

同町が実施してきた子ども育成事業は多岐にわたる。子どもの夢を応援する「未来挑戦隊チャレンジャー育成プロジェクト（通称・ミラチャレ）」や、ロジエクト（通称・ミラチャレ）や、中学校での商品開発授業、未来のIT世界を視野に入れたプログラミング授業など、子どもの可能性と能力を広げるプロジェクトの実施に寄付金が使われており、子どもの夢を応援している。

▶ 未来挑戦隊チャレンジャーのプロデューサーでもあり、子ども育成プロジェクトのキーパーソン。宇治田原町 企画財政課 勝谷聡一さん



京都府宇治田原町

〒610-0289
綴喜郡宇治田原町大字立川小字坂口18-1
企画財政課 ふるさと応援推進係
☎ 0774-88-6632

子どもたちの夢を応援する!

宇治田原町の子ども育成プロジェクト

ふるさと納税寄付金を活用して、未来を担う子どもたちの夢を応援する、宇治田原町ならではの子ども育成プロジェクト。様々な取り組みを実施しているなか、注目のプロジェクトをご紹介します。



▶維孝館(いこうかん) 中学校の生徒を対象に、多国籍のスタッフと表現豊かなコミュニケーションをとりながらプログラミングを学ぶ教室「IT KIDS」から特別講師を招いて先端プログラミング授業を実施。全学年がクラスごとに、プログラミングソフトの一つ、「スクラッチ」と自動車ロボットを使い、実社会でも使用されている「自動運転システム」の構築に挑戦した。



▼小学生等を対象としたデジタルツールも含めたプログラミングや、ものづくりなどの講座を開催し、論理的思考力や創造力を培う「学びスイッチオン事業」。下の写真は、同町総合文化センターにて、IT KIDSの講師を招いて、「プログラミングでSDGsを学ぶゲームを作ろう!」をテーマにプログラミング教室を開催した。




▼フィンランド教育の第一人者・メルヴィ先生による子育て(読み聞かせ)講座を開催。就学前の子どもをもつ保護者らが、家庭でできる「絵本・本の楽しさ・面白さを通じた子どもの言葉の育て方」についてグローバルな視点で学ぶことができた。



▲「未来挑戦隊チャレンジャー育成プロジェクト(ミラチャレ)」の一環で、将来の夢の姿に変身した写真を撮影してポスター化。子どもたちが大人になったときに、まちのおかげで成長した自分があると思ってもらえるような楽しい企画。

◆こちらミラチャレの一つ。小学校低学年以下の子どもを対象に、50mを1秒速く走ることを目標とした、かけっこ教室を開催。



▲中学生を対象に、ふるさとへの愛着や誇りを醸成し、自己のキャリアを自主的に設計し実現させていく力を育てる「ふるさと応援キャリア教育事業」。上の写真は、同町内の企業「宇治田原製茶場」全面バックアップのもと、生徒たちのアイデアで開発し発売が決定した新商品。高橋希愛(たかはしののあ)さん(左)を代表とする生徒らの商品「茶ッピー茶歌舞伎ガチャBOX」と、中川袖月(なかがわゆづき)さん(右)を代表とする生徒らの商品「5種類のカラフルハートティーバッグ」。どちらも同町返礼品にもラインナップされている。